㉓ 百　田　の　大　榎　木

今は昔、人間が二本足で国内六十余州を旅した時代、峠のお地蔵様と街道脇の足王様は旅人の大いなる信仰の対象とされました。

箕地峠の延命地蔵

右は、津山往来の難所のひとつ箕地峠の街道脇（ＪＲ津山線箕地トンネル北口南）に立つ延命地蔵です。元徳２年（１３３０）のもので岡山市指定文化財です。お顔が激しく損傷しているのは、旅で疲れた旅人がお地蔵さんの御利益を受けたくて石をぶつけたためと言われます。（建部町史）

大井百田から阿曽へ抜ける六道峠にもお地蔵様が立っていました。こちらの方は、石つぶてを受けたかは不明ですが、御利益の独り占めを狙ったバチアタリ者の仕業により、根こそぎ持って行かれ、今はお姿を見ることは出来ません。

一方の足王様ですが、近い所では総社小学校の運動場東南隅、国道１８０号の歩道脇に見ることができます。

総社市諸上の足王様

かつては、松山往来（吉備津の板倉～高梁）脇の総社宮に祀られていたとも伝わりますが、現在の場所に移る前は、小学校西の刑部・阿曽方向への国道交差点脇に立っていたそうです。

簡単な瓦屋根の祠には、何時の奉納か分別出来ぬ程に朽ちた草鞋の塊が、往時の信仰の深さを物語ります。脇には、自然石に八衢彦神・八衢姫神・久那土神と刻まれた碑がたっています。

八衢とは、道が八つに分かれるところ。数多くの方向に分岐する所という意味です。また、久那土神は道中安全の神とされています。

岡山県内でも指折りの一つに数えられる吉備中央町上田東湯武の足王権現は、北行きの旧街道が津山方面と湯原方面へ分岐する三叉路の南に建ちます。２ｍもあろうかと思うほどの大草鞋が奉納されています。吉備中央町の藁細工は、知る人ぞ知る立派な民芸品で、技術の伝承保存会もあるようです。

この足王様の前庭に、大井筒井坂登蓮寺住職３名の名前を刻んだ石造の碑が建立されています。文政８年（１８２５）同寺住職岩月性善師が東粟倉村後山へ修行の道中、小森の大師堂で受けた霊夢により告げられた地に加茂霊場の内３３ヶ所を開いたことによるものでしょうか。

吉備中央町加茂川総合事務所岸本所長さんのお話しでは、町内では、歯痛、腹痛、眼病等々の専門医が〇〇地蔵とか、□□様とかの看板を立て、旅人の訪うのを待っていたそうです。

吉備中央町上田東湯武の足王様と奉納の大草鞋

さて今回の本題に入りましょう。平成５年８月から平成６年１月にかけて岡山県教育委員会による「大山道（高松生石橋から伯耆大山）」のルート調査が行われました。

調査報告書には、大山道は大井の町の中を通過し、井ノ鼻から西町・久田と、足守川沿い

を北上していたとされています。図中黒線のルートです。

しかし、このルートのうち足守川と並行する西町・久田間は、足守川と百田川に挟み撃ちされる場所です。道を通す地点としては好ましくないと思いませんか。果たして、現地でお話しをお聞きする中で貴重な情報を得ることが出来ました。

つまり、久田公会堂当たりが新田と呼ばれていることです。新田ということは、それまで、この新しい土地と足守川とを仕切る物（大山道）はなかったということではありませんか。

また、西町を歩きますと、対岸の大森沖の灌漑用水路の形態と同じように、洪水によって出来た用水路が不整形に町内を通じ、その隙間が宅地になっていることがわかります。これらのことから、足守川と百田川の洪水時のせめぎ合いで、足守川の川筋が北東寄りとなり久田、西町側に空地が出来たので、久田はここに客土をして水田とし、西町は宮地山の尾根続きの高地から移転して町家を形成したということがわかります。

大榎木の下を通る道

では、肝心の大山道はどこを通っていたのでしょうか。ヒントは「草鞋」です。百田の乗金悦子さん宅の谷向かいに阿弥陀様の土地と伝わる田があり、畦畔にある大榎木に願掛けに草鞋を吊す風習があったと伝わります。

阿弥陀様と言えば、久田の谷に朽ち果てた阿弥陀堂があります。今は中田孝之さん宅の坂下に移りましたが、ここに足王様がお祀りされているそうです。しかし、阿弥陀様は仏様、足王様は神様ということですから、本来は別々にお祀りされていたもので、足王様は、阿弥陀堂の仮のお客様と考えるべきでしょう。

丹田池下の山裾を通過する道

では、足王様はどこから阿弥陀堂へ仮住まいされたのか。百田の大榎木の土地は、今は阿弥陀様の土地と言われますが、所有者は足王様の現住所である久田の阿弥陀堂の所有者と同じです。つまり、本来は足王様の土地と言うべきを、実所有者に揃えて呼称するようになったのではないでしょうか。

西山内の大山道･右の写真と似ています

草履を吊すということは、足王様の証に他なりません。

そうです、大山道は大井の町を抜け、井ノ鼻の先を回り、丹田池下の山脇を伝い、百田の大榎下の足王様から久田の題目石の方向へと通じていたのでした。なお、足王様の久田阿弥陀堂仮住まいの因は、百田側の理由、つまり百田川の土石流災害と考えれば物語は完成です。